



怖い上司との 付き合い方

2月7日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

2月7日のおはなし「怖い上司との付き合い方」

会社の廊下の一番端につくられた喫煙室。男が2人、煙草を吸いながら話している。

男1「怖いって？」

男2「ああ怖い」

男1『近藤さんが？』

男2「そう。近藤さん」

男1「怖いってのはどっち方面？」

男2「どっち方面って？」

男1「殺されそうとか」

男2「まさか」

男1「小姑的とか」

男2「よくわかんないっす、それ」

男1「濃ゆ〜い関係を迫られそうとか」

男2「そんなんじゃないっす」

男1「じゃ、どんななの？」

男2「私ンとこだけっすかね。訳わからないこと、ワーツといきなり言われたりしません？ 『藁束三千条光るに足らずの心意気で行け』とか、『和解するまでなめさすな、だ！』とか」

男1「言われたことねえよそんなの。え、なにになに？ 井上ンとこはしょっちゅう言われてるわけ、そういうの？ 意味わかんないんだけど」

男2「冗談言ってるのかと思ったんすよ、最初は。『ジンジャーエールは誰への応援だと思ってるんだ！』とか言われてさ。上司のギャグだと思って愛想笑いしたら、ジャブで殴られてさ」

男1「予告なしでパンチ？ よせよ。酔っ払ってたんだろ、その時？」

男2「酔っばらってなんかないっすよ。会社ですよ、昼間の」

男1「よくパワハラとか聞くけど、予想外だな、それは」

男2「うん。上の方に相談したんすけど、裏で何かあるらしくて、うやむやにされちゃって。嘘つき扱いされてさ。運が悪かったと思えて」

男1「信じられねえ。社内暴力だろ、それ。処罰の対象だぜ」

男2「ところがどっこい。とがめだては一切なし。とんだ社内規約もあったもんすよ」

男1「残りの課員は？」

男2「つーと？」

男1「井上以外の課員は？ 恐々としてるわけ？ 危害を加えられないように、勤務時間をやり過ぎし……、しっ！ き、来た！ 気づかれるなよ」

男2「あれ？ あの人の、違いますよ。あの入口の人っしょ？ あれは近藤さんじゃないっすよ」

男1「い？ いやいやいやいや。岩坂部の近藤課長だよ。」

男2「かつぐ気っすか？ 課長の顔を間違えるなんてことは」

男1「何言ってるの？ あれ近藤課長だってば」

男2「うちの課長ですよ？」

男1「そりゃそうだけどさ」

男2「うちの課……そーいや、残りの課員がどうしてるかってさっき言いましたよね？ うちの課には一人しかいないっすよ」

男1「一人？」

男2「はい。一人っす」

男1「おかしいな」

男2「なにが」

男1「たった一人？」

男2「はい」

男1「そんな課あったっけ……」

男2「よしてくださいよ」

男1「大変だ」

男2「なにが」

~~~~~

男1「崇られてるよお前」

男2「タタラレテルウ？」

男1「確か5年前に体罰問題起こして、退職迫られて自殺した、体育会系の課長がいて、たまたまその名前が近藤……」

喫煙室の明かりがふっと消える。

(「怖い上司との付き合い方」 ordered by A T-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 怖い上司との付き合い方

<http://p.booklog.jp/book/43646>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43646>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43646>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.